

第64回新潟画像医学研究会

日 時 平成23年6月18日(土)
午後2時～
会 場 万代シルバーホテル 5F
「万代の間」

I. 一般演題

1 膵管内腫瘍栓を伴った膵房細胞癌の1例

山崎 元彦・高野 徹・吉村 宣彦
青山 英史

新潟大学医歯学総合病院放射線科

症例は67歳、男性。左側腹部痛を主訴として前医を受診、膵尾部に粗大腫瘍を指摘され当院第一外科紹介入院となった。Dynamic studyでは腫瘍の充実部分は早期より淡く造影される比較的多血性の性状で、内部には広範な壊死を認めた。腫瘍と連続して膵体部の主膵管内を充填する充実性病変が認められ、拡散強調像で同部は高信号、ERCPでは主膵管の途絶面が乳頭状を呈しており、膵管内腫瘍栓が疑われた。外科的切除の結果、膵房細胞癌と診断され、ごく一部に高分化な内分泌腫瘍が併存していた。膵管内腫瘍栓を示す膵腫瘍の報告には膵房細胞癌と内分泌腫瘍が大半を占めており、両者の併存腫瘍の報告も認められる。しかし本症例のようにCTで膵管内腫瘍栓が指摘された報告例は極めて少ない。膵管内腫瘍栓の有無は膵腫瘍の質的診断に寄与し得る重要な所見であると考えられた。

2 当院における喀血に対するTAEの治療成績

高木 聡・佐藤 和弘*・江部 祐輔*
高野 徹**・佐藤 章子**
池田 洋平**
尾崎 利郎***・関 裕史***
堀井 陽祐****
田崎晃一郎*****

長岡赤十字病院放射線科

同 呼吸器内科*

新潟大学医歯学総合病院放射線科**

県立がんセンター放射線科***

県立中央病院放射線科****

県立新発田病院放射線科*****

【目的】当院における喀血に対するTAEの治療成績をretrospectiveに評価する。

【対象と方法】2006年1月～2010年6月までの間に喀血に対してTAEを施行した31患者につき、その治療効果をretrospectiveに検討した。内訳は男性：21例、女性：10例、年齢は40～89歳で平均66.4歳であった。基礎疾患は気管支拡張症：5例、細菌感染症：4例、真菌感染症：5例、抗酸菌感染症：6例、抗酸菌感染＋真菌感染症：1例、腫瘍：3例、特発性：7例であった。また、手技成功の正否に関与する因子について解析を施行した。

【結果】経過中、21名生存/10名が死亡し、内5例はTAE後の止血不良による呼吸器症状で死亡した。再喀血を呈した11例中7例は3週間以内に再喀血を来していた。初回TAEによる止血効果の正否に関与する因子としては、TAEの施行理由と、関与血管の動脈瘤状ないし血管腫状変化の有無が有意な因子として判定された。初回TAE後再喀血を来した症例につき、生存群と死亡群との間で因子の検定を施行したところ、追加TAEの有無が有意な因子と判定された。

【結論】喀血に対するTAEは有効な治療法であるが、初回TAEの止血効果不良の場合には予後不良となりうる。追加でのTAEが施行可能であれば、生命予後延長に寄与する可聴性がある。関与血管の動脈瘤状ないし血管腫状変化を呈している場合に、止血効果不良となりやすい傾向が疑われたが、今後症例の蓄積とさらなる検討が必要